

その他の文献

(1) 東京教育大学農学部学生(~1958.3)

これまでの経営とこれからの経営(*菱沼達也と共著) 1~15 頁、秋田県横手市旭農業協同組合、1957(昭和32年). 8

(2) 千葉県農業協同組合中央会(1958.4~1960.5)

農協経営と営農指導(酒巻英次と共著、千葉県農業協同組合中央会営農課編、農協における営農技術指導体験の記録) 76~80 頁、1959(昭和34年). 4

パンフレット・『経営の進路を考える - 高校教師と普及員による小さな共同調査 - (菱沼達也編)』、農山漁村文化協会、24 頁、1959(昭和34年). 7

「日吉農協案内」、1~8 頁、日吉農協指導部、1959(昭和34年). 7

「ブタの飼い方」、有線放送番組「農協だより」テキスト - 毎週金曜日午後7:30~8:00 -、1~15 頁、日吉農業協同組合、1959(昭和34年). 9

(3) 東京教育大学農学部(1960.6~1969.9)

「ひとつこと」、農村文化運動(農文協綱領批判特集号) 10、19 頁、1960(昭和35年). 12

「茨城県稲敷郡東村平須『新利根開拓農協』の共同経営共同見学記(菱沼達也と共著) 1~18 頁、教育大畜産研究会、1961(昭和36年). 12

「刈取機試験報告(吉田勲と共著)」、1~7 頁、総合農学研究室、1962(昭和37年). 9

「水稻栽培条件と水田気温の変化について(梶浦惟明と共著) 農学部研修資料、第1号、14~15 頁、1962(昭和37年). 12

「総農生活10年 - 1954~1964 - 」、1~14 頁、1964(昭和39年). 2

「農村散歩」、現代の社会、創刊号、62~66 頁、現代社会研究会、1963(昭和38年). 11

「農民の睡眠時間についての一考察(*菱沼達也と共著)」、千葉県成田市南羽鳥部落における農民の睡眠時間と栄養と健康の分析、3~12 頁、1964(昭和39年). 11

「兼業化と農民の健康 - 東京教育大学農学部成田分室の調査から - (菱沼達也・森川辰夫・岡竜子・萩原篤) 1~18 頁、東京教育大学農学部成田分室、1966(昭和41年). 3

「大村発生の思い出」(広島大学教育学部国語研究室編「大村先生に学びて、186 頁) 154~155 頁、1966(昭和41年). 12

(4) 農業技術研究所(1969.10~1974.1)

農家生活時間分析方法の二、三の問題、農業経営通信、 87、25~28 頁、1971(昭和46年). 3

労働構造・生活時間構造をめぐって - 農家生活構造論の周辺 -、1~12 頁、1972(昭和47年). 9

「むらとくらし」(第1期)

ひしぬまたつや『食生活と僕の心』をめぐって、第2号、10~16 頁、1972(昭和47年). 11. 30

変貌する主婦の時間の生かし方・過ごし方、第3号、11~25 頁、1972(昭和47年). 12. 30

開拓経営から高冷地やさい経営への変容、第4号、29~30 頁、1973(昭和48年). 1. 30

“農家生活研究”という視点を求めて - “農家生活原論”の試み(1) -、第10号、14~

16 頁、1973 (昭和 48 年). 7. 1

農家の主婦の忙しさについての一考察 - “農家生活原論” の試み (2) -、第 12 号、18 ~ 24 頁、1973 (昭和 48 年). 9. 1

川名専枝に “むら” の話を聞く、19 ~ 23 頁、1973 (昭和 48 年). 11. 1

(5) 中国農業試験場 (1974. 2 ~ 1979. 3)

農家生活リズム論メモ、1 ~ 18 頁、1976 (昭和 51 年). 2

生活研究課題の発想と分析手法、1 ~ 6 頁、J S A 中国農試班・第 1 回研究者問題検討会資料 1978 (昭和 53 年). 6

農業経営ブロック会議 近畿・中国、農業経営通信、116、28 ~ 29 頁、1978 (昭和 53 年). 6

「むらのくらし」(第 2 期) 中国農業試験場経営第五研究室編集・発行

(6) 東北農業試験場 (1979. 4 ~ 1982. 3)

今日の農家生活・『心も病み』『嫁がこない』状態をどうするか、あすの農村、第 62 号、78 ~ 85 頁、新日本出版社、1980 (昭和 55 年). 1

人間模様のにしひがし、研究の環境、106、5 ~ 7 頁、東北農業試験場、1980 (昭和 55 年). 5

地域農業振興の担い手創出とその活動展開、たより、23、5 ~ 6 頁、東北農業試験場、1981 (昭和 56 年). 6

「地域農業と学校給食」を読んで、調査と情報、第 69 号、5 頁、農林中央金庫調査部研究センター、1981 (昭和 56 年). 10

ひとつこと、浪江虔・『図書館運動五十年 - 私立図書館に拠って -』によせられたおことば、14 頁、1981 (昭和 56 年). 11. 3

(7) 農業研究センター (1982. 4 ~ 1987. 9)

古い記憶と新しい経験から、山崎農業研究所 所報・耕、20 ~ 22 頁、33、1982 (昭和 57 年). 9

現地調査報告・良さを実現する主体的な活動 - 三和町恩名下坪主婦グループの活動から - (活力ある農村を築く婦人の役割 - 第 6 回婦人農業従事者セミナー - 57 改善第 20 号、普及第 9 号) 36 ~ 39 頁、茨城県農林水産部改良普及課、1983 (昭和 58 年). 3

21 世紀の協同組合、調査と情報、第 96 号、19 ~ 20 頁、農林中央金庫調査部研究センター、1984 (昭和 59 年). 11

現地調査報告・農家に嫁を迎える条件を考える - 真壁町上谷貝北部、八幡会を訪ねて - 第 7 回婦人農業従事者セミナー - (58 改善第 11 号・普及第 2 号) 37 ~ 39 頁、茨城県農林水産部改良普及課、1984 (昭和 59 年). 3

婦人集団の新しい芽、調査と情報、第 101 号、2 頁、農林中央金庫調査部研究センター、1984 (昭和 59 年). 6

現地調査報告・都市近郊のグループ活動のあり方と今後の課題 - 水戸市加倉井町・ひまわり生活改善グループを訪ねて - 策 8 回婦人農業者・セミナー - (59 改善第 4 号・普及第 4 号) 24 ~ 26 頁、茨城県農林水産部改良普及課、1985 (昭和 60 年). 3

「地球社会農業」というイメージで、将来を展望する - 「農村生活」研究者からみた農業・

農村・農民 -、全農林筑波地本機関誌「研究とつくば」、7、22～23頁、全農林労働組合筑波地方本部、1985(昭和60年).9

学校給食の場から人間のある農業づくりを求めてほしい、いのちをはぐくむ学校給食通信、

8、1頁、いのちをはぐくむ学校給食全国研究会、1987(昭和62年).5

「すくらむ」(全農林労働組合筑波地方本部農業研究センター分会機関紙)寄稿

“筑波手当闘争で激論 - 学研労協代表者会議に出席して - ”、すくらむ第23号、1982.10.11

“全農林中央、コメ・食糧運動提起 - 地本委員長・書記長会議報告 - ”、すくらむ第35号、1987.11.26

“秋闘から春闘へ - 学研労協幹事会報告 - ”、すくらむ第39号、1987.12.15

“新職場委員に期待する - 第2回職場委員会における執行委員長のあいさつ - ”、すくらむ第44号、1987.1.20

“春闘へ一步前進 - 「農業再建・八七春闘勝利総決起集会(全分会委員長会議)」報告 - ”、すくらむ第52号、1987.2.24

“農業再建運動についての職場の意見・職討(87.2)に関する執行部からの説明”、すくらむ第63号、1987.3.17

“婦人部発足にあたりお祝いの言葉”、すくらむ第75号、1987.5.28

“第5回職場委員会・委員長のあいさつ”、すくらむ第80号、1987.6.17

“水産にも再編の動き - 東海水研分会シンポに参加して - ”、すくらむ第81号、1987.6.23

“緊急の職場オルグ実施 - 地本執行委員選出問題 - ”、すくらむ第93号、1987.8.5

“新研究室体制の内容あきらかに - 地本・63体制検討委(第2回)開く - ”、すくらむ第94号、1987.8.8

“転換期に直面する全農林運動 - 松江大会参加報告 - ”、すくらむ第96号、1987.8.13

“63体制ほぼ固まる「全農林第7回行革対策会議(8月10日)開く - ”、すくらむ第98号、1987.8.20

“この一年”、すくらむ第101号、1987.8.28

“転勤するに当たって”、すくらむ・第2期・第10号、1987.11.15

(8) 農業総合研究所(1987.10～1990.2)

自己紹介 - 「モグラ」の半生 -、総研月報、470、20～22頁、農業総合研究所、1987(昭和62年).11

談話室「苦勞を泣かせるな」 - 丸岡秀子さんの言葉、日本の科学者、Vol.123、1、24～25頁、日本科学者会議、1988(昭和63年).1

政府研究機関の研究の“自由”、耕・山崎農業研究所 所報、52 夏季号、37～38頁、山崎農業研究所、1988(昭和63年).8

「発刊を祝して、一言」、N i S E Vol.1、1～2頁、1989(平成元年).5

「住みよい農村環境に関する世論調査」速報、8頁、(財)農政調査委員会、1989(平成元年).6

「秋季特別研究会・森川報告(記録、1研究会活動)」、農業総合研究所年報 38(1988 - 昭

和 63 年度) 40~41 頁、1989 (平成元年). 11

追悼、『回想の君塚正義(君塚正義先生追悼文集)』、213~214 頁、君塚先生追悼文集刊行会、1989 (平成元年). 11

「いま、うまくいかないことの数々」、N i S E Vol.3、23~26 頁、1990 (平成 2 年). 2
日本農村生活研究会報告、農総研季報 5、57~58 頁、農業総合研究所、1990 (平成 2 年). 3

(9) 東北農業試験場(1990.3~1993.9)

「農村計画研究へ、理論と実践分析から挑戦 - ソフト面からの農村計画へのアプローチ - 」、東北農業試験場だより、56、7 頁、1990 (平成 2 年). 12

「巻頭言・多様な課題への挑戦を」、農業経営通信 166、1990 (平成 2 年). 12

「秋田県南部平場稲作地帯との複合化・組織化への模索 - 平鹿郡十文字町ニッ橋・下ニッ橋集落調査報告 - (友國宏一・香月敏孝・田畑保・森川辰夫)」、農総研だより 9、1991 (平成 3 年). 1

「近況雑感・90 年 12 月 3 日・月曜日の記録」、N i S E Vol.6、1991 (平成 3 年). 7

「やまびこ - 読者の声」、調査と情報、第 65 号、7 頁、1991 (平成 3 年). 10

「担い手」、東北農業試験場だより、60、1 頁、1991 (平成 3 年). 12

集落営農組織の形式と運営方式(東北農業試験場農村計画部) - 総合農業試験研究推進会議経営部会の「重要検討事項」の報告要旨 -、農業経営研究成果集報第 11 号(平成 2 年度) 71~72 頁、1992 (平成 4 年). 3

(10) 弘前大学(1993.10~2001.3)

「コミュニケーション」、生活協同組合研究、10 月号、74 頁、1993 (平成 5 年). 10

「巻頭言・研究交流の発展を望む」、農村生活研究、第 38 巻第 1 号、1 頁、1994 (平成 6 年). 2

「新任教官・自己紹介」、学園だより、第 103 号、36 頁、1994 (平成 6 年). 3

「コミュニケーション」、生活協同組合研究、3 月号、104 頁、1994 (平成 6 年). 3

「高齢者による農業・農村の活性化について - 農村高齢者交流フォーラム記念講演」(平成 5 年度高度高齢化地域農村活性化推進事業) 17 頁、宮城県農政部、1994 (平成 6 年). 3

「『シロカキの研究』の下請け」、耕・山崎農業研究所所報、65、32~33 頁、1994 (平成 6 年). 12

「新しい夫婦の対話を」、みどりの風に夢をのせて - いきいき女性農業者塾の話線 -、宮城県石巻地方農業改良普及センター、31 頁、1996 (平成 8 年). 3

「至福の時」(歴代部長の記念論説・平成 2 年 3 月~平成 5 年 9 月) 東北農村計画研究・第 13 号(最終号) - 東北農業試験場農村計画部のあゆみ -、東北農業試験場農村計画部、19~21 頁、1996 (平成 9 年). 9

「画期的な提案として生かすために」、青森県農山漁村高齢者ビジョン、35 頁、青森県農林部、1997 (平成 9 年). 3

「農協組織に期待する - 新・大型農協の組織活動への希望 -」、調査と情報、2 頁、第 135 号、農林中金総合研究所基礎研究部、1997 (平成 9 年). 8

「附属養護学校の挑戦」、弘前大学学報、第 545 号、2~3 頁、1998 (平成 10 年). 6

「景観もまた研究資源として」『研究成果 50 年 - 東北農業試験場の歩み - 』、564～565 頁、農林水産省東北農業試験場、1999 (平成 11 年). 9

「気配りの人」(浅井捷英・俊子編『走馬灯 - 悟の生涯を偲ぶ文集』) 64～65 頁、2000 (平成 12 年). 1. 13

「いまなお なつかしい先達」(喜田美登編『笑顔積善の人 - 澤邊恵外雄氏追悼文集 - 』) 65～66 頁、2000 年 (平成 12). 9

新聞寄稿

1. 地域農業を担う婦人の課題、農業共済新聞、 1435、1980 (昭和 55 年). 5. 14
2. 老農の思いを受け継いで、農業共済新聞、 1473、1981 (昭和 56 年). 3. 4
3. 自著を語る (『農村生活の構造』) 農業共済新聞、 1505、1981 (昭和 56 年). 11. 4
4. 私の提案 - 内容を持つことが先決 -、農業共済新聞、 1606、1984 (昭和 59 年). 1. 1
5. 「母の日」に寄せて - 感謝される母から期待される母へ -、農業共済新聞、 1622、1984 (昭和 59 年). 5. 2
6. 農村の高齢者問題、名寄新聞、第 10724 号、1985 (昭和 60 年). 3. 31
7. 農村高齢者の労働能力と役割開発、ラジオ短波第 1 放送、1985 (昭和 60 年). 6. 10 (PM0 : 15～0 : 20)
8. 中年のあなたもいつかは - 「敬老の日」に考える -、農業共済新聞、 1733、1986 (昭和 61 年). 9. 10
9. (取材・伊藤和幸) 高齢者問題の地域的対応は、農業共済新聞、1988 (昭和 63 年). 12. 7
10. (取材・木村浩) お年寄り、若妻が生き生きしてこそ - 地域ぐるみで知恵を -、農業共済新聞、1923、1990 (平成 2 年). 9. 26
11. コメント・東北農政局調査 “ 高齢者農家 ”、農業共済新聞、 1972、1991 (平成 3 年). 10. 9
12. (取材・穴戸雅彦) 冷めた自意識も必要 - 青森県内で東北会議・“ ゆとり ” テーマに聞く -、全酪新報、 1426、1991 (平成 3 年). 11. 20
13. 輝く酪農生活へ - どこから突破するか - (特集・心豊かな酪農めざして) 全酪新報、 1430、1992 (平成 4 年). 1. 1
14. 農林漁業に女性の視点、岩手日報、1992 (平成 4 年) 3 月 18 日
15. (取材・鈴木敏) わたしの “ 仕事場 ” 楽しく快適に (10) 提言、日本農業新聞、1992 (平成 4 年). 6. 30
16. (取材・本間恵喜) リンゴ再建にエール - 相馬村の取り組み紹介 -、陸奥新報、1992 (平成 4 年). 8. 3
17. まず男が意識変革 - 「2001 年女性ビジョン」 - 農村女性の本音は? -、農業共済新聞、1992 (平成 4 年). 10. 14
18. (取材・大竹憲二) “ 輝く女性、主役を支える ”、日本農業新聞 (東北版) 1993 (平成 5 年). 5. 5
19. 読書欄・紹介、「生活者の創る農とくらし」、日本農業新聞、1993 (平成 5 年). 6. 4

- 20 . 自著を語る、農業共済新聞、1993 (平成 5 年). 6 . 9
- 21 . 男の理解 女の自覚 - 「食と農」未来を語る女性フォーラム、農業共済新聞、1993 (平成 5 年). 12 . 8
- 22 . 男の自覚、農業共済新聞、 2164、1995 (平成 7 年). 11 . 8
- 23 . 黒子も演技者 ~ 普及員への希望、日本農業新聞、第 11845 号、1996 (平成 8 年). 3 . 27
- 24 . 農村女性の活躍を阻むもの、農業共済新聞、 2218、1997 (平成 9 年). 1 . 15
- 25 . 「生活力」が低下する日本 - 力を失った若い男女の結びつき - 、農業共済新聞、 2426、2001 (平成 13 年). 6 . 13